

1

人身降世(人身降世)天界觀(天界觀)の自生的近代性

Indigenous Modernity of the Cheon'gye-gwan based on Insin-gangse

研究目的と問題意識

東学思想から大巡思想への変化過程の探究

天観(天觀)の変化と人身降世

- 東学思想の超越天(超越天)から大巡思想の人身降世(人身降世)への転換
- 既存の天観(天觀)の限界と、人間中心の新たな世界観成立の必要性
- 西洋近代性の限界を克服する東アジアの自生的近代性の模索
- 聖(聖)と俗(俗)の再配置による新たなリミナリティ(境界性)の形成
- 「古き天」を「作り変える」天地公事(天地公事)の意味の探究

研究方法論および主要概念の定義

人身降世、天界観、三界の核心概念の探究

研究方法論

- 文献研究:『典経』、『大巡真理会要覧』など大巡思想原典の分析
- 比較思想分析:東学思想、儒仏仙の天観、西洋宗教との比較
- 概念史的アプローチ:天観・地観・人間観の歴史的変遷の考察

人身降世(人身降世)

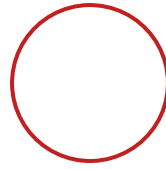
九天の最高神(九天上帝)が人間の身体で直接降臨し天地を改造する現象。東学の超越天の出現より積極的な介入形態

天界観(天界観)

大巡思想における天の体系的構造。9つ以上の重層的な天界の層位と神明(神明)のシステムを含む

三界(三界)

天界・地界・人間界から成る宇宙構造。仏教の欲界・色界・無色界とは異なり、神明の聴令(聴令)と会散(會散)によって運行される



東学思想の超越天と天観

超越天(超越天)の出現

東学思想では、初めて人世に超越天が出現したが、出現のみでは人間がその意を完全に理解しえなかった。水雲・崔濟愚の天師問答(天師問答)から始まった超越天の概念は、東学の核心思想として定着した。

「天地が鬼神であり鬼神が陰陽である」

天観・地観・人間観の変化

東学の超越天は既存の天(天)の概念を超える新たな超越的存在として、天と地、人間の関係を根本的に再定立した。

東学天観の特徴と限界

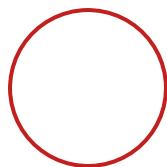
- 超越天が人世に出現はしたが人身降世へは至らない
- 天地人(天地人)間の階層解体の試みが不完全
- 儒教的伝統と限界を克服することは困難であった
- 超越天の実体化の未完成

東学思想の成果

儒教(伝統)の内在神観(内在神観)から離れ、超越神観(超越神観)への転換を試み、聖(聖)と俗(俗)の境界を再設定するリミナリティ(Liminality、境界性)の基盤を築いた

東学から大巡思想へ

東学思想において始まった超越天の概念は、大巡思想における人身降世へとさらに発展し、自生的近代性の重要な土台となった。



大巡思想の人身降世概念

人身降世(人身降世)の意味

人身降世とは、超越的存在(九天上帝)が人間の身体で直接世に生まれることを意味する。これは東学思想の超越天が人世に出現するに留まったのとは異なり、大巡思想においては直接人間として降臨し天地公事を行うという概念である。

「上帝が九天におられたとき、神聖仏菩薩などが、上帝でなければ混乱に陥った天地を正すことができないと訴えたため....辛未年に自ら世に降ることを定められた。」

人身降世の背景

マテオ・リッチから招来された西欧的近代性が病弊を生じたため、神聖仏菩薩は九天上帝に人身降世を訴えた。これは物質中心の西洋近代性が招いた天下尽滅の危機に対する対応と見なしうる。

超越天から人身降世への 転換

東学思想	大巡思想
超越天の出現	九天上帝の人身降世
啓示の形にとどまる	実体を備えた人間として顕現
部分的な聖-俗の再配置	完全な聖-俗リミナリティの完成

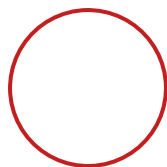
人身降世の思想的意味

- 天と地を作り変える天地公事が可能
- 神明が人間の心に往来し介入
- 天観・地観・人間観の総体的変化
- 人間と超越天が心のみならず身体まで通じる存在へと昇格
- 東西天観の実体論的統合の実現

天地改造の必要性

「今、天も作り変え地も作り変え、水も漏れぬよう度数を組んでおいたので、各自の限度に従い到達するにつれ、新たな基盤が開かれるだろう。」

超越天が実体を持つことは人身降世によってのみ可能となる。これに



大巡思想 三界(三界)構造

三界(三界)の概念

大巡思想の三界は天界(天界)、地界(地界)、人間界(人間界)から成る総体的宇宙構造を意味する。これは既存の天地人三才(三才)とは異なり、各領域の内部システムと神明界を強調した概念である。

「その三界公事とは、すなわち天地人の三界を開闢することであり、この開闢は他人の作ったものに従うのではなく、新たに作られるものであるゆえ……」

既存宗教の三界との相違点

仏教の三界(欲界・色界・無色界)は天界のみを意味するが、大巡思想の三界は天界・地界・人間界のすべてを包摂する全体宇宙構造を示す。

宗教	三界概念
仏教	欲界(欲界)、色界(色界)、無色界(無色界)
大巡思想	天界(天界)、地界(地界)、人間界(人間界)

三界の構造とシステム

- 天 天界(天界)九天(九天)と天地神明が存在する天。9つ以上の重層的な階層構造を持つ
- 地 地界(地界)地の世界。冥界(冥界)と地界の神明が存在し、天界と人間界を連結する
- 人 人間界(人間界)人の住む世界。九天上帝が人身降世した場所であり、天地公事が行われる舞台

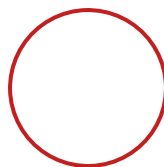
神明(神明)の導入

大巡思想は東学思想とは異なり、神明(神明)の概念を積極的に導入して三界の運行を説明する。神明は三界を往来し、天地の運行と人間の吉凶禍福に関与する。

三界システムの特徴

- 天・地・人が力動的かつ現在的な変化を同時に経験
- 天地の運行が神明によって体系的に管理される
- 上帝の人身降世によって三界の秩序が再編
- 「作り変える」天地公事を通じた三界の開闢の追求

神明界と天地公事



神明神明の役割

大巡思想において神明は、天地の運行を担う実体的存在であり、上帝の命令に従って活動する。神明は人間の心にも出入りし、体質と性格を変化させる役割を担う。

「神明をして人の腹中に出入させ、その体質と性格を作り変えて用いよう。これは、たとえ杭であっても気運を付ければ用となるためである。」

天界と神明の会散(會散)

天界の神明たちは会散(會散)を通じて上帝の命令(聽令、聽令)を受け、天地の運行を主宰する。風雨(風雨)を起こすにも無限の功力を要する複雑な体系から成る。

天地公事(天地公事)の意味

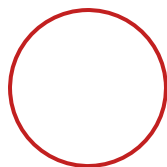
- 作り変える天地公事:古き天と地を新たに改造
- 先天の相克(相克)秩序から後天の相生(相生)秩序へ転換
- 天地の度数(度数)を整理し神明を調和させる作業
- 冥府(冥府)から始まる宇宙的整備作業

三界公事(三界公事)の意味

「三界大権を主宰し、造化をもって天地を開闢し、後天仙境(後天仙境)を開き、苦海に沈んだ衆生を広く救おうとするのだ。」

天地運行の原理

大巡思想では、天地のあらゆる運行が神明によって決定され、人間の吉凶禍福までもが定められる。天地公庭(天地公庭)において神明たちが会散と聽令を通じて万物を主宰する。



東西天觀の比較

東洋伝統宗教の天觀

- 儒教:内在的天(理)、道德原理中心の天觀
- 仏教:三界(欲界、色界、無色界)中心の天界觀
- 道教:天地人三才(三才)の天觀、道と氣(氣)中心

西洋宗教の天觀

- 超越的実体論創造主としての神中心
- 物質中心:マテオ・リッチ以降の西欧近代性の拡散
- 二元論的世界觀:天国(天上)と地獄(地下)の区分

「西洋人マテオリッチ(利瑪竇)が東洋に来て地上天国を建てようとしたが.....その文明は物質に偏り、かえって人類の傲慢を助長し、ついに天理を揺るがし自然を征服しようとするところから、あらゆる罪惡を絶えず犯し.....」

大巡思想の天界觀の差別性

- 九天(九天):9つ以上の重層的天界構造
- 人身降世(人身降世):超越天の人間の身への降臨
- 神明界(神明界):天地人すべてを包括する神明システム
- 三界公事(三界公事):天界・地界・人間界の統合的開闢

区分	既存の天觀	大巡思想天觀
実体性	抽象的・観念的	実体的・現実的
層位構造	単純・階層的	複合的・システムの
運行原理	自然法則・超越的摂理	神明の聴令(聴令)と会散(會散)

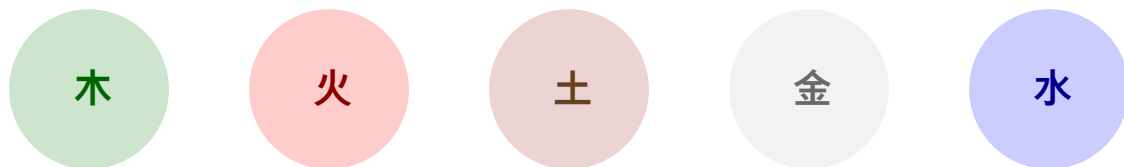
東西天觀の統合

大巡思想は東洋の属性論的天觀と西洋の実体論的天觀を統合し、さらに神明の会散と聴令という実体を通じて九天・天命・天界の間の位階と役割を新たに定立することにより、新たな聖・俗の再配置を完成させる。

五行思想と土克水

五行思想(五行思想)の核心

五行思想は、宇宙万物が木(木)、火(火)、土(土)、金(金)、水(水)の五要素から成り、これらの相生(相生)と相克(相剋)の関係によって世界の変化がなされるという東洋宇宙論である。



土剋水(土克水)の意味

大巡思想において特に強調される土克水は、地(土)が水(水)を制御する原理であり、上帝の人身降世と関連する。『典経』に現れる「左の掌に壬(壬)字、右の掌に戊(戊)字」は、土(戊)が水(壬)を治める原理を象徴する。

金火交易(金火交易)と宇宙循環

五行における金火交易は、金(金)と火(火)が互いに位置を交換して五行を循環させる原理である。直線的循環を作り出すこの原理は河図洛書の核心であり、大巡思想において天地の変化と開闢の根本原理として再解釈される。

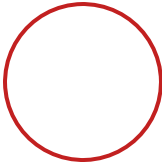
河図洛書(河圖洛書)宇宙観

- 河図(河圖):超越天の宇宙創造の原理、相生(相生)中心
- 洛書(洛書):宇宙変化の原理、相剋(相剋)中心
- 東洋思想で宇宙万物の理致(理)を説明する根本原理

大巡思想の再解釈

大巡思想は五行のうち土(土)を第五元素として注目し、土克水の原理を通じて人身降世の実体性と宇宙の均衡的变化を説明する。河図の相生と洛書の相克が調和をなし、後天開闢の新たな世界が開かれるという創造的統合の原理を提示する。

自生的近代性の特徴



自生的近代性の意味

大巡思想の自生的近代性は、西欧的近代性とは異なり東アジアにおいて内部的に発生した近代的思惟方式を意味する。これは「神は死んだ」と宣言した西洋の近代性ではなく、既存の伝統を継承しつつも新たに变化させる方式の近代性である。

大巡思想の近代性の特徴

- 加宗(加宗)の概念 – 既存の天を認めつつ新しい天へ交替
- 西洋の超越天と東洋の神明が実体として融和する新たな世界観
- 西欧式近代性の物質中心主義の限界の克服
- 人間の地位と役割の再定立

「今や、天をも地をも作り変えて、水が漏れる隙もなく度数を編み上げたので、各自の限度に達した時、新たな基業が開かれるであろう。」

聖(聖)と俗(俗)の再配置

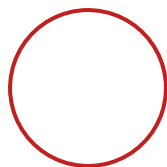
東学思想において提起された聖-俗の再配置は、人身降世を通じて完全に実現される。超越的な神聖が人間の日常に入り込み、超越天が実体を持った九天上帝として人間世界に直接降臨することにより、聖と俗の境界が根本的に再構成される。

リミナリティ (Liminality、境界性)の完成

リミナリティは既存の範疇と秩序の間の境界的状态を意味する。大巡思想では天地人三界が神明界へと融合し、人間と神明が互いに疎通協力する新たな境界的システムが完成される。

区分	東学思想	大巡思想
天観の特徴	超越天の出現	九天上帝の人身降世
聖-俗関係	再配置の試み	完全な再構成
リミナリティ	基盤の整備	システムの完成

大巡思想における聖-俗の再配置とリミナリティの完成は、自生的近代性の核心であり、これを通じて自生的近代性へと展開される。



ポストモダンの含意

大巡思想の天界観の脱近代性

大巡思想の天界観は近代を超える脱近代特性を示す。西洋の近代性が物質中心主義と理性中心のパラダイムによって招いた限界を克服し、精神と物質の調和、超越と内在の統合を志向する。

「今や、天をも地をも作り変えて、水が漏れる隙もなく度数を編み上げたので、各自の限度に達した時、新たな基業が開かれるであろう。」

多元主義との関連性

大巡思想の天界観は多様な宗教と思想を包摂する多元主義的特性を持ち、これは現代のポストモダン時代における多様性の尊重、相互共存のパラダイムと文脈を共にする。

脱近代性の特徴

- 大他者の消滅ではなく新たな形態への変形と再活性化
- 近代的二分法(神/人間、聖/俗、超越/内在)を解体し統合
- 超越天の人身降世を通じた聖と俗の完全な統合
- 東西思想の融合を通じた新たな世界観の提示

近代性	大巡思想の脱近代性
理性中心	理性と超越の調和
物質的進歩	精神的物質的調和
人間中心	天・地・人 三界の均衡
「神の死」	「神の人間化」(人身降世)

現代社会における意味

大巡思想の天界観は、1980年代以降のポストモダン時代の多様な危機環境、社会、価値観に対する代案的世界観を提示し、局地的思想を超えて普遍的価値と実践の方向性を提示する現代的意義を持つ。

結論および研究意義

大巡思想の天界観の統合的意味と現代的価値

「今、天も作り変え地も作り変え、水も漏れぬよう度数を組んでおいたので、各自の限度に従い到達するにつれ、新たな基盤が開かれるだろう。」

東西天観の統合および再解釈

西洋の超越的実体論的天観と東洋の内在的属性論

的天観の統合 五行思想と土克水(土克水)、金火交

易(金火交易)の再解釈

河図(河圖)・洛書(洛書)宇宙観の創造的再構成

現代的・ポストモダンの意義

大巡思想の天界観は西次近代性の限界を克服し、東アジアの自生的近代性を完成させ、さらに東西洋思想の統合を通じてポストモダン時代の新たな宇宙観を提示する。物質中心の西次近代

大巡思想の天界観の特徴

- 人身降世(人身降世)を通じた天界観の実体化および完成
- 天界・地界・人間界の三界(三界)システム構築
- 神明(神明)を通じた天地運行のシステムの理解
- 聖(聖)―俗(俗)の再配置とリミナリティ(境界性)の完成